

# 緩やかな成長を見込むIMF見通し

## ポイント① 緩やかな成長率の回復を予想

1月20日発表のIMF(国際通貨基金)の世界経済見通しによれば、世界の実質GDP(国内総生産)成長率は2020年には3.3%、2021年には3.4%と、2019年の2.9%から緩やかに回復することが予測されています。

図1が示すように、2020、21年の先進国の経済成長率が2019年並みか、若干下回る低成長に留まるとの見通しに対し、新興・発展途上国の経済成長率は、2020、21年には2019年に比べて回復すると見通されています。

## ポイント② 見通しは若干下方修正

ただ、2019年10月時点の前回見通しと比べると、世界経済成長率見通しはやや下方修正されています。2019年は3%を割り込み、2009年以来の低成長になったと推計されています。

国・地域別に見ると、インドの経済成長率の下方修正がやや大きくなっています。一方、2020年の中国と日本に関しては、景気対策発動の効果などを織り込み、上方修正されています。

## ポイント③ 世界貿易の回復が鍵

世界経済がIMFが見通すように緩やかながらも回復に向かうかどうかは世界貿易が持ち直すかどうかにかかっているようです。図2が示すように、2019年には世界貿易量は前年比1.0%と低い伸びに留まったと推計されています。

米中間の貿易交渉の第一段階合意で保護主義に対する懸念が若干弱まったことや、中国の景気対策などによって、世界貿易が勢いを増すかどうか注目されます。

図1：国・地域別実質GDP成長率見通し

	(前年比、%)		
	2019	2020	2021
世界	2.9 (-0.1)	3.3 (-0.1)	3.4 (-0.2)
先進国	1.7 (0.0)	1.6 (-0.1)	1.6 (0.0)
米国	2.3 (-0.1)	2.0 (-0.1)	1.7 (0.0)
ユーロ圏	1.2 (0.0)	1.3 (-0.1)	1.4 (0.0)
日本	1.0 (0.1)	0.7 (0.2)	0.5 (0.0)
新興・発展途上国	3.7 (-0.2)	4.4 (-0.2)	4.6 (-0.2)
中国	6.1 (0.0)	6.0 (0.2)	5.8 (-0.1)
インド	4.8 (-1.3)	5.8 (-1.2)	6.5 (-0.9)

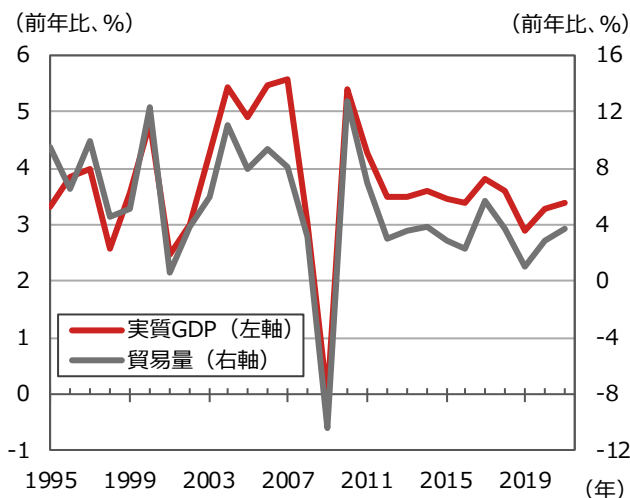
(注) 2020年以降はIMFによる予測

(注) ( )内は2019年10月時点見通しからの修正幅

(出所) IMFデータより野村アセットマネジメント作成

図2：世界の実質GDP成長率と貿易量

期間：1995年～2021年、年次



(注) 2020年以降はIMFによる予測

(出所) IMFデータより野村アセットマネジメント作成

### 重要イベント

1月23日	ユーロ圏金融政策発表
1月29日	米金融政策発表
1月30日	米GDP(10-12月期、速報値)

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆しない保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。